

The Cridge Center for the Family

(NPO 団体施設内にある保育園) 視察訪問

レポート：河野 治子

<概要>

1893 年牧師が孤児院として設立し、クリスチャンのバックグラウンドとして作られたので、現在もそのプログラムのもと行っている。

*1960 年古い建物でデイケア開始

*2004 年現在の新しい建物に移転

*カーネルサンダーさんの支援により建立
(子どもがいなく遺産を障害児を支援する施設に

寄付をしてここが建てられた)

<様子>

*デイケアプレスクール。08:00~17:00

1~3歳 24名 (1~2歳 12名・2~3歳 12名)。シングルや共働きの保護者が多い・虐待のあった子、ヘルプの必要のある子中心

*プレスクール。月・水・金クラスと火・木クラス 09:00~12:00

3~5歳 100名 (20名半日保育) 75名
学童 (アフタースクール) 幼稚園~12歳
まで使用。学童は、コミュニティー周辺の
学校からピックアップしてくる (バスでの
送迎)

*セラピーの部屋 (貸出)

*近隣の学校する部屋 (貸出)

*同系列ではない小学校 (私立)

3クラス 45名・キンダーガーデンから
2年ずつの3クラス。ここのプレスクール
に通った子は、大体の子がこの小学校に進
級する

・保育形態として、月ごとにテーマを持って
学んでいる。訪問した月は、ビクトリア



の市について学んでいた。ビクトリアの
写真や地図をテーブルに貼り、友だちが
どこに住んでいるのか知る。

戸外活動で市の見学へ。戸外に出る時
は、外出用の黄色いベストを着用。迷子
にならない目印と宣伝効果がある。

(プレスクール)

・年齢に関係なく4つのグループに分けて保
育をしている。0~3歳のプログラムがあ
るが1・2歳が中心。0歳児を預ける人は
少ない。

(デイケア)

・部屋と部屋の間には必ずキッチンがある。キ
ッチンを利用し、子どもたちと保育者が一
緒になって何かを作る。(クッキー、ケー
キ、粘土等) 物を作ることで感覚意識を経
験することを大切にしている。

クッキングはプログラムではなく子ど
ものリクエストによって行う。(共通)

・家庭状況が難しい子も通っているので、ラ
ンチは一人ひとり持ってきたものをプレ
ートに保育者が取り分けシェアして食べ
る。自分だけランチが少ないと悲しい思い

をしないようにとのセンターの方針で行っている。(デイケア)

<Q&A>

Q、部屋の真ん中にキッチンがあるのは昔からなのか。子どもの情操教育にとっても良い。

A、以前の建物にはなく、2003～2004年の建立時どうしてもほしいと作った。子どもと一緒に作る大切さと仕事をしながら子どもたちを見れる利便性がある。

絵本の”ストーンスープ”の読み聞かせを通して、みんなで作る喜び・みんなで食べる喜びを知り、キッチンがあることで体験をし喜びを共有している。

Q、壁面はいつ作っているのか。

A、午睡時等を利用している。

Q、保育士用の教材本や教材注文できる物はあるのか。

A、インターネットや本を参考にしたり、今までの経験を活かして作品作りをしている。

教材注文の本もある。

<感想>

① いろいろな所からの寄付があり、立派な建物で設備も充実していたように思う。NPO団体での活動が高く評価されているのが分かる。

② 保育を中心としているよりも福祉よりの活動の幅が大きく占めているようだ。デイケアプレスクールも虐待のあった子やヘルプの必要な子が中心と言っていたので、要保護児童については施設全体でサポートしているのか、要保護児童をどのような段階をふんで他の関連機関との連携をとっているのかも聞けると良かった。保育に関することだけでなく保護者サポートの仕方を学べるとより今の保育に役立てることができたのではないかと思う。



③ 0歳児の室内は、幼児のクラスとは違い優しい色合いで部屋の装飾や玩具で統一されていた。部屋もきちんと片づけられ、安全衛生面に留意していることが伝わってきた。しかし、幼児の部屋は、玩具が出しっぱなしだったり水がこぼれていたりと気になる点が見られた。

④ 意外と片付けがきちんとされてない施設が多く、保育者はあまり気にしないのかと思った。日本の保育所では基本的なことだがカナダではあまり気にしていないのか国の違いを感じた。

⑤ 部屋の壁面はどのクラスも素敵なものを作っていて、保育者が自信を持って作り方や技法を教えてくれたので参考にしていきたい。

⑥ 日本にないスタイルの施設なので、保育方針や概要などを知ったうえで視察ができれば分かりやすかった。

